一般コシ 1,800 円下げ ～新潟の仮渡し 魚沼産と新之助据置き～

全農新潟県本部は 18 日に令和 3 年産米の JA 仮渡し価格を決定した。大幅な需給緩和を受けて県内では、主食用作付面積を前年から 5%以上削減する努力も行われてきたが、コロナ禍の長期化によって需要回復が見通せず、高水準な 2 年産在庫もあって、うるち米は平成 26 年産の水準に近い設定となった。

県内 JA に提示された価格は、下表の通りで、一般地区コシヒカリは 12,200 円(玄米 60kg あたり 1 等、以下同じ)。26 年産を 200 円上回るが、前年からは 1,800 円下げとなった。同様に岩船コシは前年から 1,800 円下げて 12,600 円、佐渡コシは 1,700 円下げの 12,600 円に設定している。対照的に魚沼コシは 16,500 円据え置いた。この判断には他の地区関係者から不満も聞かれるが、2 年産の市中価格が依然として高止まりしている関係で、JA グループとして確実に予定集荷量を確保する狙いがあったものとみられる。実際に魚沼地区の関係者は「2 年産を求める問い合わせは今もあるが、完全に結びついた在庫しかなく、出せる余力はない。こんな状況だから、3 年産は高値買いの展開も想定される。引き下げなかった判断は妥当だろう」と話す。地区によって設定の判断が分かれた新潟コシだが、今後は各 JA がどの程度、独自加算して集荷に臨むか注目される。

ブランド育成中の新之助は、前年からの価格引き下げ効果などによって販路が拡大しつつあることを踏まえ、据え置きに。一方で業務用需要の回復が遅れていることや、他県産米との競合が激しい他のうるち米は 1,900～2,000 円引き下げている。

（以下中略）

全農新潟の令和3年産米JA仮渡し価格

単位：1等60㌔当り円（税込み）

銘柄		区分	3年産	2年産	差
コシヒカリ	一般	JA米	12,200	14,000	▲ 1,800
	魚沼	JA米	16,500	16,500	0
	岩船	JA米	12,600	14,400	▲ 1,800
	佐渡	JA米	12,600	14,300	▲ 1,700
新之助		JA米	15,200	15,200	0
こしいぶき		JA米	9,800	11,700	▲ 1,900
みずほの輝き		一般米	10,000	12,000	▲ 2,000
ゆきん子舞・ゆきの精つきあかり・あきたこまち・ひとめぼれ・あきだわら等		一般米	9,300	11,200	▲ 1,900
五百万石（契約栽培）		JA米	14,300	14,300	0
五百万石（契約外）		JA米	10,000	10,000	0
たかね錦（契約栽培）		JA米	14,300	14,300	0
たかね錦（契約外）		JA米	10,000	10,000	0
越淡麗		JA米	17,000	17,000	0
こがねもち（契約栽培		JA米	16,400	16,400	0
こがねもち（契約外）		JA米	12,000	15,900	▲ 3,900
わたぼうし（契約栽培）		JA米	14,400	14,400	0
わたぼうし（契約外）		JA米	11,000	13,900	▲ 2,900

千葉 JA コシ概算金 8,000 円も ～買取は最大 4,800 円下げ～

千葉県の 3 年産早生品種は盆前の台風から続いた長雨の影響で収穫・検査が遅れたが、先週 18 日にようやく雨が上がって作業を開始した地域が多い。JA による生産者概算金、買取価格の提示が相次いでいる。

A 農協が提示した通年の JA 米生産者概算金(1 等 60 ㌔、包装代・消費税込み、以下同じ)は、コシヒカリ 8,000 円、あきたこまち・粒すけ 6,800 円、ふさおとめ 6,600 円、ひとめぼれ 6,200 円、ふさこがね 6,000 円。2 等は 1 等の 300 円安

で、3 等は一般米扱いに。一般米は JA 米の 500 円安、一般米の 3 等は 1 等の 1,300 円安となる。

2 年産の生産者概算金と比べれば、コシは 1 期(今月 12-26 日)の 4,300 円(35%)安、2 期(同 31 日～)の 4,000 円(33%)安、ふさおとめが 1 期(同 12-21 日)の 5,000 円(43%)安、2 期(同 24 日～)の 4,700 円(42%)安、ふさこがねは 1 期(同)5,200 円(46%)安、2 期(同)の 4,900 円(45%)安へと大幅に引き下げられている。2 年産も通年設定だった粒助は 4,800 円(41%)、こまちは 4,500 円(40%)、ひとめは 4,700 円(43%)それぞれ引き下げられた(中略)。

B 農協は、通年の JA 米生産者買取価格を、コシ 9,000 円、ふさおとめ・こまち・粒すけ・ひとめ 7,700 円、ふさこがね 7,200 円と提示している。2 等は 1 等の 300 円安で、3 等は 1 王の 1,300 円安。一般米は JA 米の 500 円安となる。

2 年産の通年買取価格と比べれば、コシ 3,800 円(30%)安、ふさおとめ・こまち・粒すけ 4,500 円(37%)安、ふさこがね・ひとめ(4,800 円)安に引き下げられている。

C 農協による 3 年産 JA 米の買取価格は今月 18 日～次回海底までの設定で、ふさおとめ・こまちを 9,800 円、ふさこがね・ひとめを 9500 円と提示された。コシ・粒すけは 18 日からの価格が示されてない。等級間および JA 米と一般米の価格差は前記 2 農協と同じ。2 年産の同時期買取価格との対比では、ふさおとめ・こまちが 2,900 円(23%)安、ひとめが 3,000 円(24%)安、ふさこがねが 2,800 円(23%)安に引き下げられている。(以下中略)

富山の概算金 うるち 2,000 円下げ

全農富山県本部は 18 日に運営委員会を開き、3 年産出荷契約米の概算金(＝JA 手数料を含まない価格)を決定した。うるちは富富富を除いて一律 2,000 円の引き下げを行い、コシヒカリは 11,000 円、てんたかく・てんこもりは 9500 円。

富富富は新たに設けた加算金 800 円を含む価格で 11,800 円。県の戦略推進会議で「県産コシヒカリと同等以上の価格帯を追求する」という販売戦略に転換したことから、概算金本体はコシと同額(11,000 円)としつつ、加算金を設ける(富富富の流通基準を満たすコメのみ対象)ことでコシを上回る農家手取りを保証する形だ。前年からの下げ幅は 2,700 円と最も大きくなった反面、コシとの価格差は前年までの 1500 円から 800 円に縮小している。うるち概算金設定の背景として同県本部では、3 年産主食用米は全国 67,000 ㌧の削減が必要とされた中、実際には 62,000～65,000 ㌧程度の削減に留まったこと、本紙既報の㈱米穀データバンク収穫予測全国作況 102 の「やや良」(7 月末現在)となり、国が公表した 4 年 6 月末の民間在庫量見通し 210 万㌧をさらに上回る可能性生じたことなど、需給緩和への強い危機感を挙げている。

コシは 13,000 円を 3 年間維持してきたが、3 年産は大幅値下げに踏み切った。平成 26 年産の暴落から回復に転じた 27 年産(コシ 11,300 円、てんたかく 9,500 円)に近い水準となる。（以下中略）

全農富山の令和3年産米概算金

単位：紙袋60㌔円、税込み

品種	等級	価格	差
コシヒカリ	1等	11,000	▲ 2,000
コシヒカリ	2等	10,000	▲ 2,000
てんたかく・てんこもり	1等	9,500	▲ 2,000
	2等	8,500	▲ 2,000
その他うるち	1等	9,000	▲ 2,000
	2等	8,000	▲ 2,000
富富富	1等	11,800	▲ 2,700
酒米（全銘柄）	1等	10,500	▲ 500
	2等	9,100	▲ 500
新大正糯	1等	13,500	▲ 500
	2等	12,900	▲ 500
その他もち	1等	12,700	▲ 500
	2等	12,100	▲ 500